

# 男

の子の定番の遊びの一つに、「トミカ」のコレクションを持ち寄る、というのがあった。自慢しあつたり擬似レースをしてみたり、とにかくミニカーがずらりと揃うのが無心に嬉しうなのであつた。

大人になってホンモノの車を買えるようになった男たちは、やはり似たようなことをしているのではないか。同タイプの車を一堂に集めてレースをしたり披露しあつたりする「ミーティング」が、今でも地球のどこかで行われている。とりわけ〈元・男の子〉が熱くなるのは、クラシックカーの集いであるらしい。パリのレトロモビルモナコ・ヒストリック…。レースでは、速さを競うことだけが目的でもないらしいのだが、そんなレースのところが面白いの？ 新旧の高級車を愛し、その事情に詳しいある男性は、こう答えてくれた。

「同じブガッティでもね、往年の名レースで優勝した、あのブガッティ：なんていうのが出てくると、じんとくるんだよね」

レースではなく、審査員の前で車を走らせ、車およびその周辺（美女とか犬とかピクニックとか）の優雅さを競う「コンクール・デレガンス」なる集いまであるのだが、そこまでしてクラシックカーにこだわる理由は？ 〈車とファッション〉 中心の男性誌のある名物編集長はこんな説明をしてくれる。

「クラシックカーを走らせるのは、80歳のレディを散歩に連れ出すようなもの。準備も大変だし、ドク

ターやあらゆる非常時の備えも一緒にもっていかなくてはならない。技能も知識も情熱も半端じゃムリです。〈病膏育〉に入る。ほどの車好きで、きつことですよ」

そんな〈病膏育〉

なクラシックカーのミーティングの中でも、別格視されているイベントがある。英国のグッドウッド・リバイバル。

グッドウッドは、風光明媚なサセック

にあるマーチ卿の領地である。一貴族のお屋敷の敷地内にレース会場があるわけですね。

マーチ卿の祖父にあたる第9代目リッチモンド公爵がグッドウッド



ドでのレースの生みの親。身分を隠してベントレーのメカニックの仕事をしていたほどの車好きだった公爵が、1948年、本格的にサーキットをつくり、まだガソリンが配給制だった時代にミー

ティングを実現、隆盛を誇ったものの、近隣から騒音の苦情が寄せられるようになり、1966年のレースを最後のイベントとした。

広大な領地を受け継いだマーチ卿は、1998年9月、祖父のサーキットを復活させる。往時の雰囲気、そっくりそのままに。グッドウッド・リバイバル、である。観客は、40〜50年代風の装い。

ジャーナリストも当時の箱型カメラを持ち、携帯電話の使用は禁止。ハンバーガーを包む新聞は1957年の当日の日付で、放たれる羊はウィンテージ。おまけに空ではスピットファイアやメッサシユミットが模擬空戦をやっている。とことん本気でクラシックカーと遊んでいるのである。

ちなみに、別名「コスプレ」と呼ばれる9月のリバイバルのほかに、6月には「フェスティバル・オブ・スピード」という速さを競うレースもあり。男のレースもファミリーイベントも両方面倒みてしまうマーチ卿も、ノーブレス・オブリージュー高い地位にある者はこれくらいするのが当然の鏡でカムフラージュした、かわいい病膏育男がもれません。

同じ〈病〉から男の信頼が生まれ、することもある。「ヤマノアンドアンシエイツ」CEOの山野エミールさんは、イタリアで「サンタマリア・ノヴェッラ」の香りにほれこんだ数年、ぜひ日本に紹介したいと同社の社長に会いにいった。はじめは、けんもほろろにあしらわれたものの、クラシックカーの話が始めると、社長の目が輝きます。クラシックカーの話で盛り上がり、帰る頃には商談が成立。日本にこの歴史的名香をもたらししたのは、クラシックカーだった！ というわけです。

そんなこんな素敵な男たちに散歩に連れ出してもらえらるオールレディに、ちよっぴり嫉妬を感じないでもありません。

# Sanctuary of the Lost Samurai

中野香織の「落日のマッチョ」

## マッチョに愛されるのは、年齢を重ねるほど美しいオールレディ

元・男の子たちは功なり名遂げた後、何をして遊んでいるのだろう。今月はクラシックカーに熱狂する紳士たちの無心の笑顔にマッチョマークを！

Photos by Tadashi Okakura Text by Kaori Nakano  
Special Thanks to Masafumi Suzuki (Engine), Sachiko Makino (Car Graphic), Kosaku Koishihara, Jun Ishimaru



中野香織 (なかの・かおり)

服飾史家・コラムニスト。1962年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得。英国ケンブリッジ大学客員研究員を経て文筆業に。某男性誌で、男のエレガンス底上げを応援する〈エレガンスの社会学〉という連載を開始。

1 往年のルノーのガソリンスタンドを再現した建物。40〜50年代のコスプレをした人々が、そこかしこを歩いている。2 THE GLORY OF GOODWOOD: The Spiritual Home of British Motor Racing! の出版を記念して。中央で本をもっているのがマーチ卿。3 グッドウッドのクラシックカーのレース。クラッシュすると億単位の損失と言われながら、そんなことを気にする、まともなドライバーはいないらしい。

